

令和4年度の調査で出土した遺物の特徴

出土遺物の主体は8世紀（奈良時代）の土師器や須恵器という土器です。土師器の多くは煮炊きにつかう甕で、ハケメが内外面に施される西古志型と分類されるものがほとんどです。また須恵器は、杯・杯蓋・瓶・甕など一通りの器種がそろっています。杯は径の小さなものが多く、産地も新津・笹神・佐渡小泊など多岐にわたっています。このほか赤彩された土師器が数点と、カマド支脚の土製品や鉄滓などがみつかっています。



須恵器杯類



墨書土器「宅」須恵器杯



須恵器甕



土師器西古志型甕



墨書土器「宅」須恵器杯蓋



赤彩のある土師器



土製品カマドの支脚

文化財センターへもぜひお越しください。

文化財センターの常設展では、おなじ8世紀の緒立遺跡（西区）の遺物を展示しています。そのほかにも市内の各時期の代表的な遺跡を紹介していますので、ぜひご来館ください。

お問い合わせ先

新潟市文化財センター TEL 025-378-0480
〒950-1122 新潟市西区木場 2748-1 FAX 025-378-0484
<https://www.city.niigata.lg.jp/kanko/bunka/rekishi/maibun/index.html>



開館時間 / 平日 午前9時～午後5時
土・日・祝日 午前10時～午後4時
(体験受付は午後2時半まで)
休館日 / 月曜日(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、
年末年始(12月28日～1月3日)

お車で

- 北陸自動車道黒崎スマートインターを北へ約6分(2.9km)
- 新潟西インターを南へ約16分(6.0km)
- JR 新潟駅から車で約39分(14.4km)
- JR 越後線 寺尾駅から車で約18分(6.1km)

バスで

- 青山バス停発 新潟交通バス W80、81 味方・月潟線「木場川前バス停」から徒歩約30分
- 「木場バス停」から徒歩約15分



※「みどりと森の運動公園」の案内看板を目印にご来館ください。

茶院 A 遺跡発掘調査現地説明会

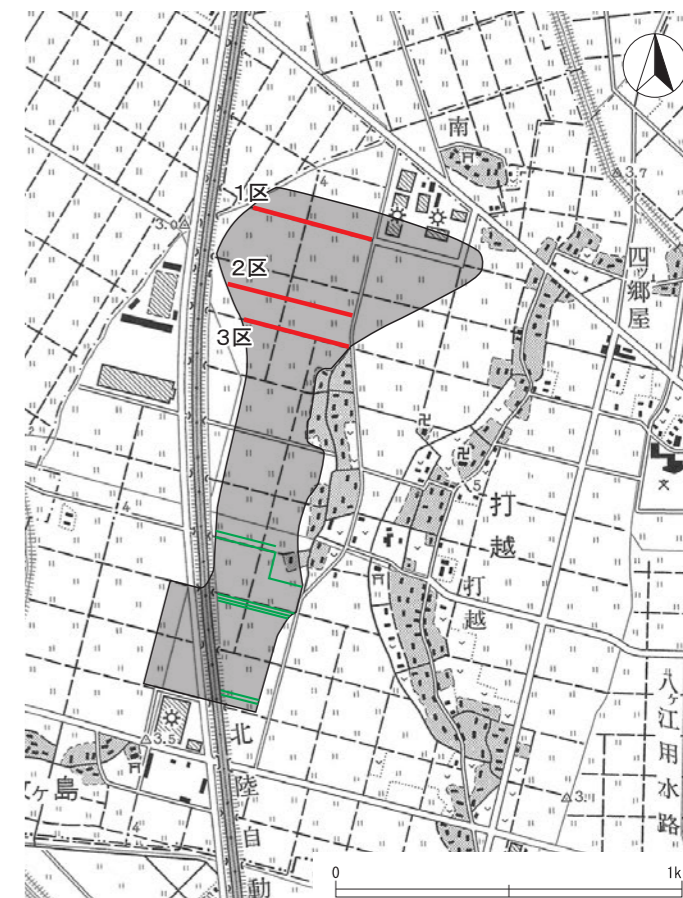
2022年10月15日(土) 主催 / 新潟市文化財センター 協力 / 株式会社吉田建設

茶院A遺跡について

茶院 A 遺跡は、西蒲区打越（旧中之口村）にある南北 1.5km、東西 0.5km の細長い形状の遺跡です。現在の打越集落に沿った形で、古い自然堤防（川の両側に土砂が堆積した地形）と考えられます。

遺跡が最初に見つかったのは、昭和 25（1950）年頃です。地元の研究者がフィールドワークを行い見つけました。

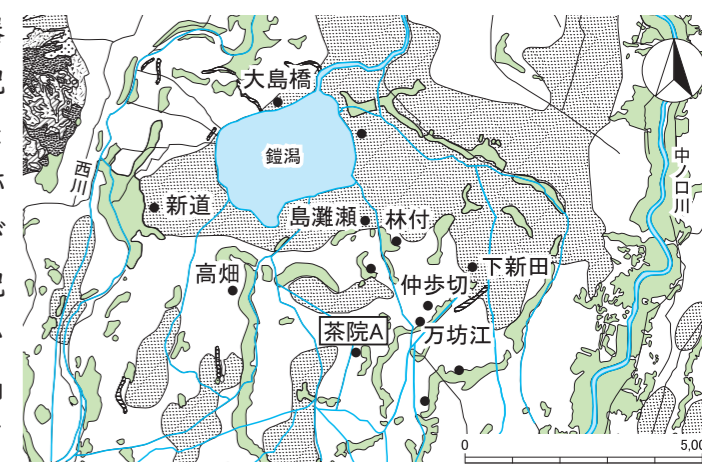
平成 27（2015）年から、「県営ほ場整備事業」という田んぼの区画や用水路などを作りかえる工事が行われており、それに伴って遺跡の調査を行っています。これまでに、古墳時代・奈良時代・平安時代・鎌倉・室町時代・江戸時代に人が暮らした痕跡があることがわかっています。令和元（2019）年には、平安時代の須恵器・土師器が5,000点以上も発見されました。中には「宅（みやけ）」と墨で文字が書かれた土器や、漆を塗った丸木弓もありました。柱やカマド（当時のキッチン）の一部もみつかることから、この場所にある程度の期間居住していたことがわかります。



茶院A遺跡範囲 2022年調査地点 2019年立会地点

潟東・中之口周辺の古代の様相

中ノロ川左岸のこの地域には、7世紀の須恵器が出土した大島橋遺跡（旧潟東村・遠藤）、8世紀前半を中心とした土器と水田・畠痕が確認された下新田遺跡（旧中之口村・道上）・仲歩切遺跡（旧中之口村・道上）、9世紀の大型の掘立柱建物がみつかった林付遺跡（旧潟東南小学校）など7世紀終わりから9世紀にかけて大規模な集落が相次いで成立しました。これらの遺跡では、「川井庄」「宅」など、古代の荘園に関する墨書土器が出土しており、有力貴族や寺院を後ろ盾とした荘園（私有地）の開発が盛んだったことがうかがえます。



新潟県 1973・74・75 『土地分類基本調査図（新潟、内野、弥彦、新津）1：50,000』をもとに作成

潟東・中之口周辺の古代遺跡

自然堤防